

釜小だより

瑞浪市立釜戸小学校 学校だより NO3

令和 7年 5月30日(金)
6月 校長 玉置和也

引き継がれる釜っ子の心

～体育発表会～

5月初めの「本気でやりきる」のスローガン発表から練習を始め、地域ボランティアの方々と共にグラウンドの草を取り、練習を重ねて本番を迎えました。途中少し雨が降りましたが、体育発表会を無事終えることができました。

ある日の朝の会。6年生だけでなく5年生が1年生の教室で体育発表会応援の歌「ゴーゴー」を1年生に披露していました。手本を見せていたのです。5年生は全員で12人。赤と白に分かれると6人ずつ。曲が流れ始め、歌が始まると紅組6人の割れんばかりの声が1年教室いっぱいになりました。次は2番。今度は白組6人が1番を歌った赤組6人を超える大きな声。そして3番は赤と白が違う歌詞を競い合うように歌います。歌い終わると1年生が「大きな声ですごかったので、まねしたいです。」と感想を言いました。自信をもって歌っている5年生は、「こんなふうに体を曲げ、声を出すといいよ。」とアドバイスを送りました。その5年生の子たちは思い切り体をそり、顔を真っ赤にして歌っていました。あとで5年生の一人に話を聞いてみると「声でも負けないようにしたい。昨年の6年の〇〇くんがかっこよかったので、自分もそうになりたい。」と話してくれました。



6年生が5年生にソーラン節の踊りを教える時は「教えたい」の気持ちがいっぱいでした。CD演奏を止めて、先生が踊り方を説明しようとする、6年生がすぐに5年生に教え始めるほどの意欲。先生は「ちょっと聞いてもらえるかな」と声を出すほど。昨年6年生に教えてもらい、踊れるようになった「釜小ソーラン」の振り付けを一つ一つ丁寧に手取り足取りペアやグループになって次へ繋いでいく。ある子は「ここはにしんを持ち上げるように」などとその動作の意味も伝えていました。6年生と5年生は、踊りを見せ合い、競い合って上手になっていきましたが、その練習での6年生の踊りぶりは自信に満ちていました。また、6年生はソーラン節の映像を見て、さらにかっこよくなるためのポイントを絞り出し、実行委員を中心に5年生に伝えていきました。それが体育発表会で披露できたのです。緊張感あり、勢いあり、体育発表会の最後を締めくくる踊りになりました。6、5年生の姿を応援席から見ていた1年生から4年生の子どもたちから「かっこいい」の声が上がっていました。まさしく憧れの姿になっていました。一生けんめいの姿を見せて、それを次に教えて繋いでいく、次の子はそこから学び、引き継いでいく。そんな釜戸小のよい伝統がたくさんあった体育発表会になりました。

最後に、体育発表会に関わり、草取りボランティアに参加してくださった方々、当日温かな拍手や熱い声援をしてくださった保護者、ご家族、そして地域の皆さま、ありがとうございました。

